

教科名	数学	科目名	数学 I	履修単位数	3 単位	履修学年	1 年次
授業形態	1 クラス 2 展開の習熟度別クラス（定期考査ごとに編成替えを行う）						
履修条件	特になし						
使用教科書	『新 改訂版 高校の数学 I』（数研出版）						
副教材等	なし						
授業担当者	渡辺 由仁、加藤 博幸						

1 学習目標

数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 指導のねらい

中学までの学習内容が定着しておらず、計算能力の低い生徒や順序立てた答案が書けない生徒が多いことを考慮して、

- ①導入に際し、小学校・中学校までの基本を確認しつつ数学 I の習得を目指す。
- ②式の羅列ではない、答案を書こうとする態度の育成を目指す。
- ③学習内容を精選し、生徒の習熟度に応じた授業展開を目指す。

3 指導計画〈105時間〉（50分授業）

学期	単元名	項目	時間	評価方法
前期	第1章 数と式	第1節 数と式の計算	20	授業の取り組み 課題の提出状況 中間考査
		第2節 1次不等式	6	
後期	第4章 集合と命題	集合と命題	6	授業の取り組み 課題の提出状況 期末考査
	第2章 2次関数	第1節 2次関数のグラフ	12	
後期	第3章 図形と計量	第2節 2次関数の値の変化	16	授業の取り組み 課題の提出状況 中間考査
		第1節 三角比	12	
	第5章 データの分析	第2節 三角形への応用	12	授業の取り組み
		データの分析	12	
	課題学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2次方程式の解の性質を理解する。 ・ 2次式で表される量の最小値を求められるようにする。 ・ 直接測れない長さを求められるようにする。 	9	授業の取り組み 課題の提出状況 課題プリント

4 課題・提出物等

課題プリントの提出、長期休業中の課題提出など

5 主な評価の方法

定期考査、授業への取組・出席状況、課題への取組、提出物の提出状況・内容をもとに総合的に評価する。

6 評価の観点

関心・ 意欲・ 態度	数学的な活動を通して、数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における考え方に関心を持ち、問題の解決に活用しようとする。 また、関数を用いて数量の変化を表現することや角の大きさをを用いた計量における有用性を認識した上で、具体的な事象の考察に活用しようとする。
数学的な 見方や考 え方	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における様々な問題の解決のために、既習事項の概念や公式等を利用して、自分なりに道筋・方針をたてることができる。 また、問題を解決していく際に多面的・発展的に考えることで、共通に成り立つ一般的な規則や性質を見つけ出すことができる。
数学的な 技能	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数量や図形などの記号で表現し、効率よく処理する方法や、推論の方法の技能を身に付けている。
知識・ 理解	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。

教科名	数学	科目名	数学 A	履修単位数	3 単位	履修学年	1 年次
授業形態	1 クラス						
履修条件	特になし						
使用教科書	『新 高校の数学 A』（数研出版）						
副教材等	なし						
授業担当者	渡辺 由仁						

1 学習目標

場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 指導のねらい

中学までの学習内容と順序立てた答案の書き方の定着を図りながら、
 ①場合の数と確率の学習を身近な話題を用いて理解させる。
 ②図形についての基本的な性質を理解させる。
 ③整数について約数・倍数を求める等の計算方法を身につけられるように指導する。

3 指導計画〈105時間〉（50分授業）

学期	単元名	項目	時間	評価方法
前期	第1章 場合の数と確率	第1節 順列・組合せ	25	授業の取り組み 課題の提出状況 中間考査
		第2節 確率	26	授業の取り組み 課題の提出状況 期末考査
後期	第2章 図形の性質	第1節 平面図形 第2節 空間図形	30	授業の取り組み 課題の提出状況 中間考査
	第3章 整数の性質		24	授業の取り組み 課題の提出状況 期末考査

4 課題・提出物等

課題プリントの提出、長期休業中の課題提出など

5 主な評価の方法

定期考査、授業への取組・出席状況、課題への取組、提出物の提出状況・内容をもとに総合的に評価する。

6 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的活動をとおして、場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質における考え方に関心をもち、様々な事象の考察に活用しようとする。 また、順列や組合せなどの記号を用いて場合の数や確率を求められることや、三角形や図形の性質を利用して様々な図形における長さや角の大きさを求められることよさを認識した上で、問題解決に活用しようとする。
数学的な見方や考え方	数学的活動をとおして、場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質における様々な問題の解決のために、既習事項の概念や公式等を利用して、自分なりに道筋・方針を立てることができる。 さらに、事象を数学的に考えたり表現するとともに、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができる。
数学的な技能	場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質において、事象を数量や図形などの記号で表現し、効率よく処理する方法や、推論の方法の技能を身に付けている。
知識・理解	場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。